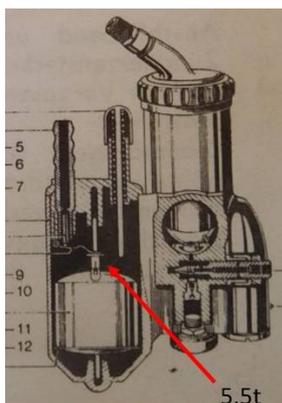


レバートップ型フロートカバー BINGキャブレター R50-69S

フロートレベル（油面）測定・調整

1967年オーバーフロー対策のため従来の直押しフロートバルブ式からバルブに3倍の圧力が掛かりシッカリ油面を管理できるテコの原理のレバートップ型フロートカバーが採用された。 熟成が足らなかったのか当初の設定では出力低下、加熱の傾向があったようで設定変更がアナウンスされた。

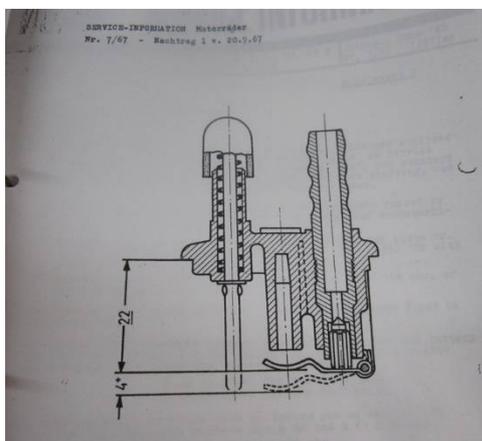


レバートップ型初期

プレートで調整 $5.5 - 1.5 = 4.0$

フロート上部に載せるプレートを5.5から1.5に変更して調整する。

ティクラが長すぎて作動時にフロートを必要以上に押しすぎてしまい凸凹になってしまうので4ミリ切断するよう指示しています。



油面は26→22ミリへ変更



26ミリ仕様ではフロート上面がボコボコに凹む

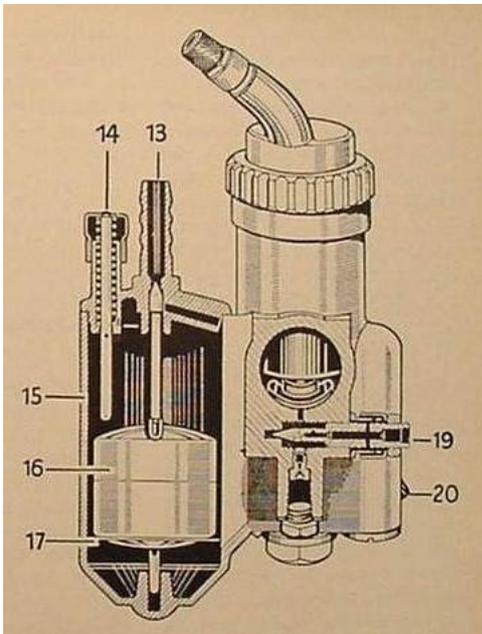
CRIMECA



適正フロートレベルは22mm



ティクラボタンが黒色樹脂製でも26あり



先行の直押しフロートバルブ型



燃料ホース口はカバーの中央に

CRIMECA